

**【第278号 紙面案内】**

第2～3面……理事会報告、第66回全国研究大会参加記・企業見学、関東部会案内

第4～5面……関西部会案内、各研究部会案内・活動報告

第6面……第67回全国研究大会・自由論題報告募集

雑感：第66回全国研究大会と新生・日本マネジメント学会

組織委員長 辻村 宏和（中部大学）

雑感をしたためることを御容赦いただきたい。改名後・本学会は、何かが変わってきているのであろうか。いましばらく全国大会はそれを問われるステージになりそうで、職責の重さを感じる。

去る11月2～4日北海学園大学（札幌市）にて、組織委員長として初プロデュースの第66回全国研究大会が開催された。100人以上の参加者を得て、この時期の北海道で……という漠然とした不安は杞憂に過ぎなかった。個人的な感想で申せば、既存の経営学概念ではカバーしきれない壮絶な体験・情報満載の、統一論題報告及びその討論が実に盛り上がった。大平義隆・大会実行委員長の人脈がスパイスとなっていたことは見逃せない。「（経営学者ではなく）経営者は、組織の本質的問題を論ずるに当たって、専門的用語にこだわらずに議論できれば、わずかな言葉で相互の考え理解することができる」（主著1938:Preface, vii意識）と喝破したC・I・バーナードの、その「わずかな言葉」に迫ることを自身の経営学研究のメルクマールとしてきた者としては、更なる研究モチベーションとなった。

いま本学会は、会員数減少という憂慮すべき事態に直面している。研究報告のストライク・ゾーン拡大を企図した学会改名は、乱立気味の経営学界ウォーズに伍していくべく、「日本経営教育学会のアイデンティティー・クライシスが学会員減少の一因となっている可能性は否めない」（松本芳男・前会長：『会報』No. 264の抜粋要約）という理由からである。いずれ歴史の審判を受けるのであろうが、時代を経て輝きを増す学会であるためには、急ぎ日本マネジメント学会のレピュテーション・マネジメントをも視野に入れるべきである。組織委員会には目下のところ学会運営の成功条件を示す力量はないので、最低限、全国大会等の運営を失敗させない条件を積み上げていくしかない。

常々、かの大命題「経営学は経営教育である」がフラッシュ・バックしてくる。“ドラえもんタイム・マシン”を使って創設者・山城章博士を呼び寄せることができるのであれば、ご指導賜りたいことが山ほどある。

理事会報告

平成 24 年 11 月 2 日(金) 17 時 30 分から、北海学園大学 7 号館 6 階行動科学実験室 1 において理事会が開催された。主な議題は第 66 回全国研究大会についてであった。

1、第 66 回全国研究大会の件

開催校である北海学園大学のご尽力により第 66 回全国研究大会の準備が順調に行われていることが報告された。

2、会員入退会の件

入会（個人 18 名）、退会（個人 8 名）が承認され、合計：個人 712 名、法人 4 社となったことが報告された（平成 24 年 11 月 2 日現在）。会員増加のために、積極的に勧誘をお願いしたいとの要請がなされた。

3、第 67 回全国研究大会の件

次年度の第 67 回全国研究大会を和光大学（実行委員長：福田好裕理事）にて開催することが報告された。

4、国際委員会の件

海外の学会との交流に尽力された会員に、表彰することが決定した。人選については、国際委員会を中心に検討することになった。また、今後の活動として、国際セッションの開催、国際シンポジウムの設置、海外学会との交流の検討などが報告された。

5、産学交流シンポジウムの件

産学交流小委員会より、年 2 回の産学交流シンポジウムを開催したい意向が伝えられた。複数の案が提示され、引き続き検討することとなった。

◇◇第66回全国研究大会・参加記◇◇

小野瀬 拡（九州産業大学）

日本マネジメント学会第 66 回全国研究大会は平成 24 年 11 月 2 日から 4 日まで、札幌の北海学園大学において開催された。本大会は、参加者が 100 名を超える規模となった。本大会の統一論題は「地域産業の発展と後継者育成マネジメント」であり、現在の日本が直面する問題をとらえたものであった。

大会第 2 日目の統一論題セッションでは東海学園大学の堀田友三郎氏からは郡上八幡における食品サンプル産業の事業承継事例から後継者の人材育成の概要が説明された。北海道中小企業家同友会の細川修氏は同友会で実施している経営幹部・後継者教育「同友会大学」の経緯と現在の状況および成果を詳しく紹介した。東京学芸大学の内田賢氏は新潟県長岡における行政と地域産業の関係から後継者経営幹部教育「NEXT 道場」の展開と事業承継事例を説明した。自らが事業を引き継ぎ好転させた北海道オフィス・マシンの神野裕三氏は、部外者ではなかなか聞くことのできない承継のリアルな面を自身の経験から話した。同日行われた特別講演は小樽で水道管の製造と販売を行う光合金製作所の井上一郎氏から、人材育成を

中心とした事業の経緯をお話しいただいた。

翌日、東洋大学の小椋康宏氏をコーディネーターとして、統一論題の報告者とコメントーターによるパネルディスカッションが行われた。報告者から報告の要旨、コメントーターから議論のベースとなる問題提起がなされたのちに、フロアからも多くの質問があがり活発な議論が行われた。一連のセッションは、地域における後継者育成という身近な問題でありながら明らかにしづらかったものの深層に迫るものであり、大変充実したものであった。

この有意義な大会を開催・運営していただいた大平義隆大会実行委員長をはじめ北海学園大学の関係各位に心よりお礼申し上げる次第である。

◇◇第66回全国研究大会・企業見学◇◇

— サッポロビール株式会社 北海道工場 —

清 剛治（国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学）

全国研究大会初日、サッポロビール株式会社北海道工場への見学を行った。1876年（明治9年）創業、現在はホールディング体制で事業推進される、サッポログループの中核企業である。

初めに同工場エンジニアリング部長の寺本幸司氏による事業説明が行われた。全国に分散する七工場の一つの工場との意識を持ち、高い品質の標準化に努めていた。設備管理、生産管理、法令遵守、環境取組、技術継承（人材育成）に関し、ICTによる仕組みを構築することにより、各業務遂行の確実性を高める努力がなされていた。

特に次の三点から、訪問目的であった「環境経営」の実践に対する成果が顕著であることが理解できた。①工場で発生する廃棄物・副産物の100%再資源化の達成、②工場排水からバイオガスを回収し工場内燃料として再利用を実施、③「コゼネレーション設備」（投入するエネルギーから、その排熱を利用し、動力や温熱等を取り出し活用していく）の導入によりCO₂排出削減を推進、の三点である。

最後に製造ラインの見学を行った。生産者との協同契約栽培された厳選原料を使用する等、厳しい品質管理の実際を理解することができた。できたての生ビールを試飲する機会も得、同社の企業理念を達成すべく、「おいしいビールをつくること」に対する本気度が伝わる意義ある見学であった。

◇◇関東部会開催のご案内◇◇

関東部会長 手塚 公登（成城大学）

平成24年度第3回関東部会は、12月8日（土）成城大学にて開催されます。部会終了後は忘年会を兼ねた懇親会が予定されていますので、ぜひご参加ください。プログラムの詳細につきましては、前号（第277号）の会報あるいは学会ホームページをご覧ください。

平成25年度第1回関東部会は、平成25年5月11日（土）千葉商科大学で開催の予定です。報告を希望される方は、関東部会長・手塚公登（TEL：045-962-6181, tezuka@seiyo.ac.jp）までお知らせください。関東部会では随時報告者募集を行っております。

◇◇関西西部会開催のご案内◇◇

関西西部会長 佐々木 利廣（京都産業大学）

秋晴れの候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、平成24年度日本マネジメント学会関西西部会第2回例会を下記のとおり予定いたしております。皆さま奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

＜報告会＞

●日 時：平成24年12月1日(土) 13:30～

●場 所：大阪府立男女共同参画・青少年センター 4階中会議室
(京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅：1番出口から東350m；JR東西線大阪城北詰駅2号出入口から西へ550m) TEL：06-6910-8500

●会 費：500円

13:30～開会の挨拶

※報告：35分、質疑応答15分

第1報告：時間 13:40～14:15(35分) 質疑応答 15分

報告者：木村敏夫（流通科学大学）

テーマ：「域内市場統合と北欧諸国の財務報告制度」

第2報告：時間 14:35～15:10(35分) 質疑応答 15分

報告者：東俊之（金沢工業大学）・曹佳潔（京都産業大学大学院）

テーマ：「創発的組織間コラボレーションの検討と実践性」

第3報告：15:50～16:25(35分) 質疑応答 15分

報告者：大東正虎（岡山商科大学）

テーマ：「地下街の消費者行動に関する研究」

＜懇親会＞

●時 間：17:30～

●場 所：水蓮月 天満橋店（京阪本線天満橋駅 徒歩1分）

●会 費：3000円

※お問い合わせ先

関西西部会長・佐々木利廣（sasaki@cc.kyoto-su.ac.jp）

関西西部会幹事 曹 佳潔（京都産業大学大学院）

陳 惠貞（関西大学大学院）

携帯電話：080-6118-4669 E-mail: eb8d101@ipcku.kansai-u.ac.jp

◇◇マネジメント実践研究部会・活動報告◇◇

清水 健太（東洋大学）

日 時：平成24年10月13日(土) 15:00～17:00

会 場：東洋大学白山キャンパス6号館6203教室

報告者：中村公一（駒澤大学）

報告テーマ：「経営戦略の実践性－現状と課題－」

平成24年10月13日(土) 15:00より、第4回マネジメント実践研究部会が東洋大学白山キャンパスにて開催された。報告者は、中村公一氏(駒沢大学)で「経営戦略の実践性－現状と課題－」というテーマで開催された。報告内容は、現代の企業における経営戦略の現状と課題について論じられた。経営戦略における研究方法などについても論じられており、経営学を研究する大学院生や、若手の研究者の教育に意義のある内容であった。報告終了後には、小椋康宏部会長を司会者として19名の出席者との活発な質疑応答がなされた。

◇◇マネジメント実践研究部会開催のご案内◇◇

日本マネジメント学会第5回マネジメント実践研究部会を開催いたします。多数の会員のご参加をお待ち申し上げます。

日時：平成24年12月1日(土) 10:30～

会場：東洋大学白山キャンパス2号館16階スカイホール

参加費：300円

10:30～10:40 部会長挨拶 小椋康宏(東洋大学)

10:40～11:40 研究報告

「実践としての経営戦略－元数学教師による近江兄弟社の経営再建に関するケーススタディ」

報告者 柳川高行(白鷗大学)

司会者 平田光弘(中央学院大学)

11:40～12:10 討議 司会：平田光弘(中央学院大学)

12:10～ 次回研究部会の打ち合わせ 司会：小椋康宏(東洋大学)

ご出席の場合は、下記連絡先までご連絡ください。

連絡先：小椋康宏(日本マネジメント学会常任理事)

清水健太(日本マネジメント学会幹事) shimizuk@toyo.jp

◇◇日本・国際マネジメント研究部会のご案内◇◇

日時：平成24年12月8日(土) 10:00～12:00

場所：成城大学3号館4階、ミーティング・ルームA

報告者：石田 賢(エムアイ総研代表、元・日本サムスン顧問)

報告テーマ：「サムスンの経営戦略(仮題)」

コメンテーター：藤野哲也(長崎大学名誉教授、経営アドバイザー)

総務委員会からのお知らせ

平成25年は名簿の更新の年に当たります。第1弾として11月末を目処に名簿の確認作業をしています。メールアドレス、住所、電話、専門分野などの変更がある場合には、nipponmanagementgakkai@gmail.comまで御連絡をお願いします。

第67回全国研究大会・自由論題報告募集

平成 25 年 6 月 7 日(金)～9 日(日)に和光大学において開催される第67回全国研究大会における自由論題報告を募集します。下記要領に従ってご応募下さい。

1. **応募資格** 本学会の会員。ただし、1 年以内に報告された方の応募はご遠慮下さい。
2. **テ ー マ** 本学会の目的に沿う以下のもの
 - ・ 経営体の諸活動に関する実践的経営の研究
 - ・ 日本的経営および国際的経営の研究
 - ・ 経営者・管理者の実践的能力を育成するための経営教育の研究
3. **応募書類** 応募には表紙、報告要旨、参考文献の 3 点が必要です。
 - ・ 表紙 (A 4 サイズ 1 枚) ……以下を必ず明記してください。
 - ①氏名 (漢字・仮名および英語表記) ②報告テーマ ③所属 (現職および職位)
 - ④連絡先 (自宅および所属先の電話番号・FAX 番号、E-mail アドレス)
 - ・ 報告要旨 (A 4 サイズ、用紙縦置き横書きで 2 枚以内)
要旨には問題意識、論点、結論等を必ず含めてください。
 - ①字数は 2,000 字以内 (40 字 30 行)、10.5 ポイント、余白は上下左右各 25 mm
 - ②報告テーマはゴシック体、要旨は明朝体
 - ・ 参考文献 (A 4 サイズ 1 枚) ……書式は報告要旨に準じます。
参考文献は内容と密接に関係するものにとどめ、関係の薄いものは控えてください。
上記書類を下記締め切り期日必着にて電子メールまたは郵送でお送りください。
4. **締 切** 平成 25 年 1 月 31 日(木) 必着
5. **応募先・問い合わせ先**
日本マネジメント学会事務局 (担当: 魚住 良三)
〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4 (株)山城経営研究所内
TEL: 03-3264-2100 FAX: 03-3234-9988 E-Mail: name@kae-yamashiro.co.jp

* 機関誌委員会からのお知らせとお願い *

機関誌委員長 樋口 弘夫 (和光大学)

機関誌への次回投稿の締め切りは、平成 25 年 1 月 31 日です。投稿規程・執筆要領・組見本を遵守していない原稿は、書き直していただきます。

編集後記

第66回全国大会では、多くの会員の皆様に参加され、活発な議論が展開されました。年末にかけて、地域部会や研究部会が開催されます。ぜひともご参加くだされば幸いに存じます。

会報委員会一同

発行 **日本マネジメント学会**
(旧称: 日本経営教育学会)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4
株式会社山城経営研究所 (担当: 魚住)
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 (株)ドットケイズ 〒03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp